

令和元年度学校評価(教育活動診断より)

1 1月中旬に実施した「教育活動診断票(アンケート調査)」へのご協力、ありがとうございます。今年度も生徒と保護者の両者に協力していただきました。1月24日に「学校関係者評価委員会」を開催し、5名の委員の方とアンケートの分析※を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

※ 分析については、教育活動診断アンケートの4段階の評価のうち、主としてA(よくあてはまる)、B(ややあてはまる)の評価を合わせた数値を基に行っています。

全般的な傾向・特徴

生徒については項目により上下

保護者については13項目上昇、6項目下降

本年度、生徒については昨年度より上昇したものは9項目、下降した項目は11項目で、全体として平均すると昨年度とほぼ同程度と分析されます。その中で、特徴的な項目をいくつか上げます。以下の4項目です。

一つ目に部活動についてです。「部活動に目標をもって取り組んでいるか」の項目については、どの学年も昨年度より上昇し、全体としてはAB合わせて90ポイントに近づいています。昨年度より部活動時間が削減され、自ら練習する姿勢がより重要になってきました。過去のようにのべ幕なしに部活動することはできません。より、自主性を重んじた部活動経営、顧問、部員の意識改革が必要になります。この新しい時代の流れに幸田中学校の生徒もついていっていると考えられます。特に下の学年ほどAB評価が多く、今後の活躍が期待されます。

二つ目に学習についてです。将来につながる進路にも直結する学力向上については、生徒、保護者、教職員の皆が切に望んでいることですが、最近の入学生の学力不足を嘆く教職員の声も耳にします。わずか3年間で、できるはずの将来に生かせる学力を身につけさせるためにも、日頃から学習に対する意識の向上が必要となります。そう言った観点から「学習内容が理解できているか」の項目が向上したことは良かったと考えます。特に2年生の上昇率が大きく学習に対してやる気を出し始めたと思われます。

三つ目は、授業中の発表力についてです。昨年度上昇したものの、本年度再び下がってしまいました。原因の一つとしては、現1年生の数値がマイナス12ポイントと急激に下降したためと考えられます。短期間で新入生の意識改革は難しいので、今後の課題として上げられます。また、教職員の授業力アップのために現職教育を充実させて「対症的活動」を重視し、進んで自分の意見や感想などが発表できるように努めたいと思います。

四つ目は、清掃についてです。昨年度より、より自由でアクティブな活動ができるようにと幸田中フレキシブルタイムの誕生とそれに伴う日課の全面改訂がなされました。その際、清掃時間は15分から10分に短縮され、清掃活動の破たんが心配されましたが、長年無言清掃を実践し、短時間でも分母場所をやりきれぬ生徒の姿に感心しました。しかし、3分の2の時間で同等の活動をやりきることはやはり無理があります。時間が少ないことをしっかりと意識させ、厳しい状況であっても清掃活動をやり切れる幸中学生を求めて、指導したいと思います。

保護者にも少しずつご理解いただきました

昨年度については、保護者への質問事項については、ほぼすべてマイナスと厳しい評価をいただきました。それが本年度は、3分の2の項目が上昇しました。上昇した13項目の中で注目すべきは、次の3点です。

一つ目は、安全教育に関する評価です。AB評価の合計が約93%もあり、100%に近づいており、この教育診断を始めてから最高の数値でした。これは、保護者から本校の防災教育や安全教育それに伴う諸活動に高い理解をいただいていると考えられます。本校の代名詞ともいえる全校ダンスを「島唄」から東日本大震災の復興支援ソングである「ライジングサン」に進化させたことに対して、よく理解していただけたと考えます。また、幸中学区合同避難訓練では、引き渡し訓練から避難所開設訓練をすることで防災教育のレベルアップを図ったことが評価されたとも原因の一つとして加えることができます。

二つ目は、「子どもは学校に信頼できる友達がいるか」の項目です。この項目はどの学年の保護者もAB評価の合計が85%を超え、中でも3年生の保護者は約92%の高数値でした。中学生にとって



学校に友達がいるかいないかはとても重要なことで、上昇したことは好ましいことです。原因の一つとして、新日課の作成やフレキシブルタイムの新設、いじめをテーマにした生き方講演会などが考えられます。

日々不安定な状態で多忙な中学校生活を送るのではなく、毎日同じ日課をくり返し生活することで、生活のリズムが生まれ、心や体が落ち着くと思います。また、生徒同士がかかわれるようにペア学習やグループ討議などを努めて取り上げていること、エンカウンターで集団の人間関係作りに努めていることも原因と考えられます。今後も多忙な毎日であっても、生徒同士がかかわる時間を大切に、常に目を掛けるように日々心掛けたいと思います。



教育目標との関連

本校では、教育目標(「いつも熱く ずっと熱く生きる」生徒の育成)に迫るため、本年度も、様々な活動を展開して教育活動を行ってきました。そこで、今回のアンケートをこれに照らし合わせて分析してみました。

① 学習内容への理解が高まった

自分から学ぶ姿勢を大切に

○ 設問「学習内容が理解できている」の項目でAB評価の生徒は82.2%(+3.4)でした。この数値は、学校評価を始めて以来、最高数値を記録しました。特に2年生の数値上昇が顕著で、前年度より10ポイント以上上昇しています。学校生活は授業が基本です。その中でも、やらされている学習よりも自主的な学習の、充実感が得られて、成果もたくさん期待できます。部活動だけでなく、学習に対しても自主的な姿勢が見られるようになったと考えられます。今後、さらにこの数値が伸びるように継続した指導をしていくつもりです。



② 大きな成果が出た部活動

新しい取組に順応できる生徒へ

○ 社会全体の流れに従い、町内3中学校では、昨年度より部活動の取組が新しくなりました。平日の木曜日と土曜日曜のどちらか一方が完全に休みになり、部活動の活動時間は3時間以内となりました。これまで通りの意識で部活動に取り組むだけでは、技術向上も精神力育成も達成できません。「部活動に目標をもって取り組んでいる」の評価は、生徒が88.2%で(昨年度86.7%、一昨年度85.9%)昨年度よりも1.5上昇しました。夏の大会において、多くの種目で好成績をあげました。岡崎幸田支所予選会では、野球部が3位、ソフトテニス部男女が優勝、卓球部男女が2位、剣道部女子が2位、弓道部男女が3位を獲得。西三大会では、野球部が3位、卓球部男子が2位、ソフトテニス部男子も2位、弓道部男子優勝。そして県大会では、野球部が2位、弓道部が3位、水泳個人の部で優勝することができ、近年にない好成績を収めることができました。顧問の先生方は、ロケに「際立って地力があるわけではなく普通の選手たち」「選手自身の意識が高い」とつぶやく姿が見られ、顧問主導でやらされている部活動からの脱却が大きな成果の一因と考えています。また、学校外の陰の協力も生徒たちの力を伸ばすことになっています。

ただし、これまでにないものなので、学校としても、各部の顧問としても、生徒をサポートできる体制を常に取りたいと思います。

③ 新しい伝統を意識した特別活動

より主体性を高め、達成感をもたせる

○ 生徒の主体的な活動に関する項目は、とても高く、今年度も90%を超えました。平成29年度新しくなった全校合唱(明日へ輝くために)、令和元年度新しくなった全校ダンス(島唄→ライジングサン)を新しい伝統として、創作、継承していくことで特別活動の充実を図ることができました。本年度の3年生は、全校ダンスを新たに創りだした学年として意欲的に学校生活を過ごしました。また、一部の希望者が東日本大震災の復興状況を直で見た上に、釜石東中との交流で安全教育の真髄に迫る学びを得る体験も実現しました。これも、新しい伝統を意識した特別活動の成果の一つと考えられます。ライジングサンがもたらした活性効果は幸田中学校にとって絶大でした。今後も、自分たちでやりきっているという達成感を味わわせていけるような特別活動を進めていきたいと思います。

学校では以上の分析に基づいて、今後の学校・学年運営に生かしていこうと考えています。なお、学校のHPにも掲載しておきますので、ぜひ御覧になってください。
(<http://www.town.kota.aichi.jp/~kotajh/>)